

# 漁海況年報

令和7年1月1日～令和7年12月31日

## 【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に直近20年の半月毎の流型を示した。また、図2には令和7年1～12月における月の前・後半の代表的な黒潮流路を示した。

令和7年の黒潮流路は、平成29年8月から7年9月継続した黒潮大蛇行が4月に終息するまではA型が継続し、終息後は概ねB型もしくはC型で推移した。

静岡県水産・海洋技術研究所  
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)

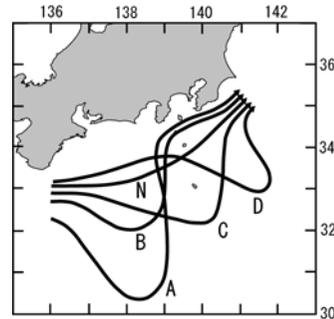


図1 黒潮流型の区分

表1 黒潮流型の経過

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H18	N	N	NB	C	C	N	N	N	N	N	N	N
H19	N	BC	D	B	C	C	C	C	C	N	N	B
H20	C	C	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C
H21	C	C	C	C	C	WB	C	C	C	C	C	N
H22	D	DN	N	BC	N	N	W	C	CD	D	N	N
H23	N	N	N	B	B	C	DW	N	BC	C	DN	N
H24	N	N	N	B	C	C	N	B	C	C	DN	N
H25	CW	ND	D	DN	N	N	NB	B	BC	C	C	W
H26	C	C	C	C	W	C	BC	N	N	BC	N	N
H27	N	BC	C	W	WB	C	C	C	CD	DC	DN	N
H28	C	CN	N	N	NB	BC	C	C	C	C	C	CB
H29	B	BC	C	C	B	C	C	C	CD	DW	W	B
H30	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R1	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R2	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R4	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R5	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R6	A	A	A	A	A	A	AW	A	A	A	A	A
R7	A	A	A	A	A	A	N	N	B	B	B	C

参考資料：海洋速報（海上保安庁）、関東・東海海況速報  
静岡県水産・海洋技術研究所一部改変

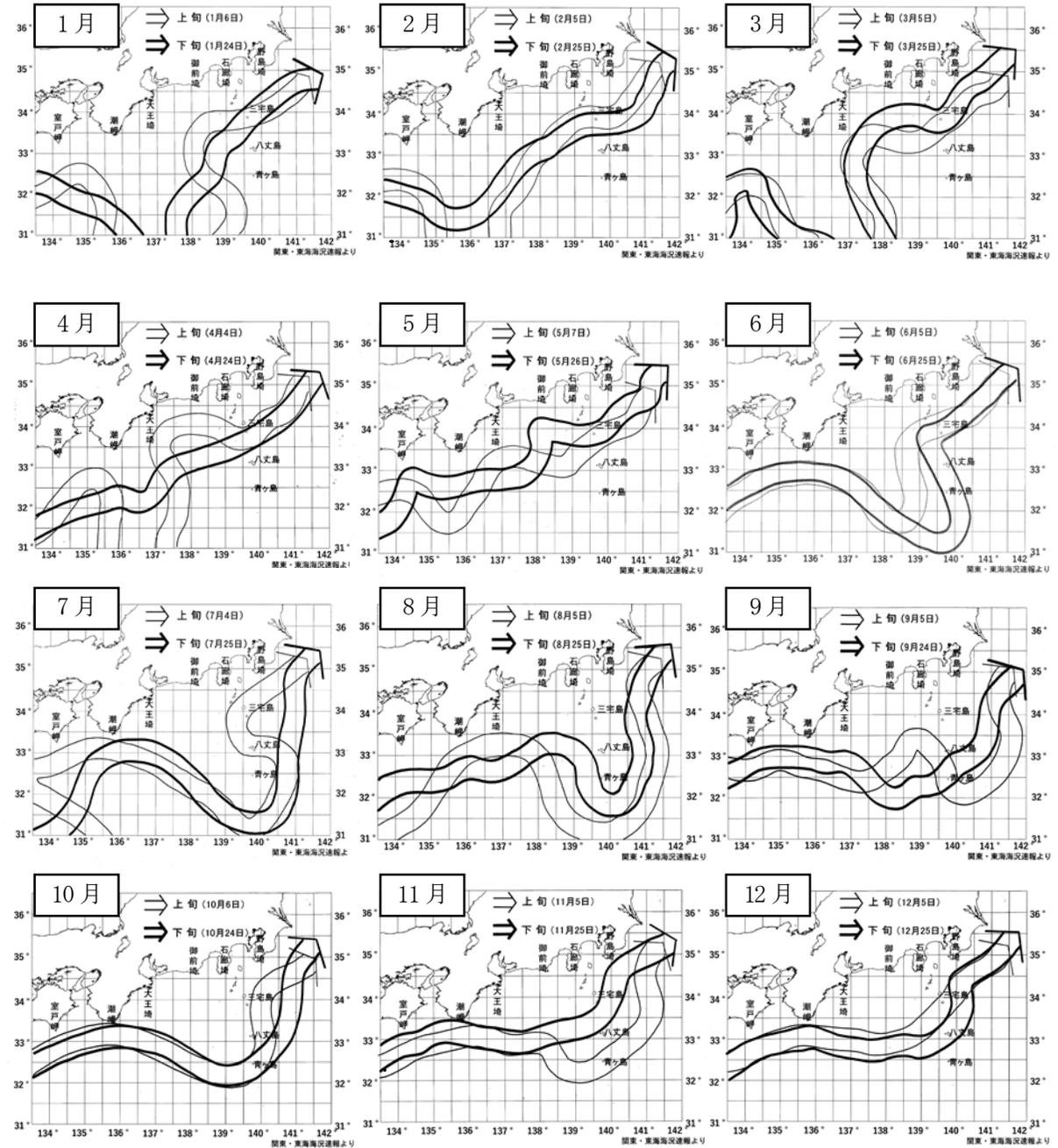


図2 令和7年の月別黒潮経路（⇒上旬 ⇒下旬 関東・東海海況速報から）

[ 県 下 沿 岸 域 ]

図3に令和7年1～12月における旬別の沿岸平均水温を示した。

令和7年の県下沿岸水温は、伊豆東岸（伊東・稲取・下田）、駿河湾（雲見・沼津・焼津）で概ね「平年並」～「やや高め」で推移した。

月毎の測点別の沿岸水温は、次のとおりであった。

- 1月は伊東、稲取、下田、沼津、焼津で「平年並」、雲見で「やや高め」であった。
- 2月は伊東、稲取、下田、焼津で「平年並」、雲見、沼津で「やや高め」であった。
- 3月は伊東、稲取、下田、焼津で「平年並」、雲見、沼津で「やや高め」であった。
- 4月は稲取で「やや高め」、伊東、下田、雲見、焼津で「高め」、沼津で「極めて高め」であった。
- 5月は全ての地点で「平年並」であった。
- 6月は伊東、稲取、下田で「やや高め」、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。
- 7月は全ての地点で「極めて高め」であった。
- 8月は稲取、下田で「やや低め」、伊東、焼津で「平年並」、雲見、沼津で「やや高め」であった。
- 9月は稲取、下田で「やや低め」、雲見で「平年並」、伊東、沼津、焼津で「やや高め」であった。
- 10月は稲取、下田、雲見、沼津、焼津で「平年並」、伊東で「やや高め」であった。
- 11月は稲取、下田、雲見で「やや低め」、伊東、沼津、焼津で「平年並」であった。
- 12月は稲取、下田、雲見、沼津、焼津で「平年並」、伊東で「やや高め」であった。

沿岸水温の平年偏差の目安

+2.5℃～	極めて高め	～-2.5℃	極めて低め
+1.5℃～+2.4℃	高め	-2.4℃～-1.5℃	低め
+0.5℃～+1.4℃	やや高め	-1.4℃～-0.5℃	やや低め
0℃～+0.4℃	平年並(+基調)	-0.4℃～0℃	平年並(-基調)

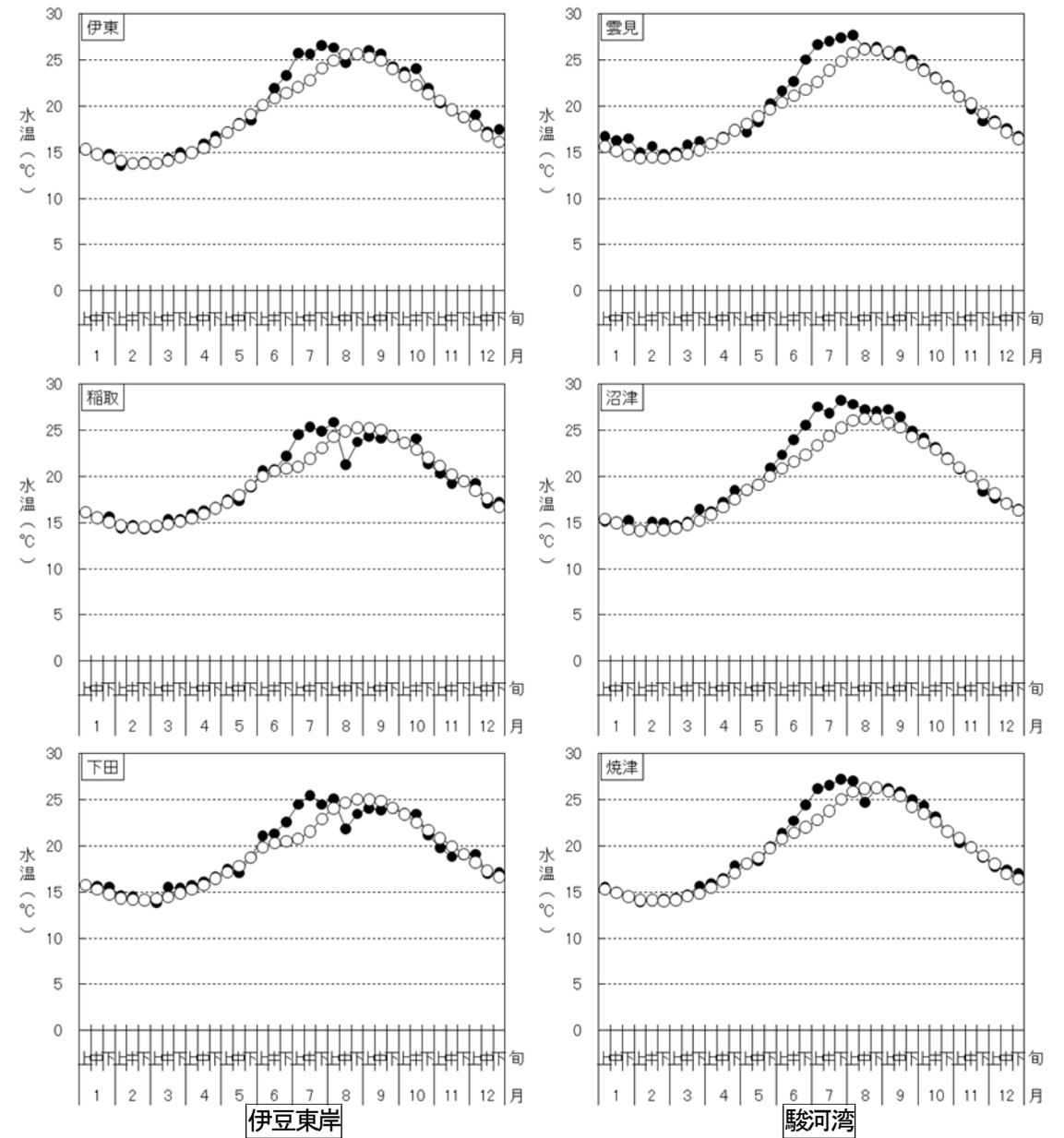


図3 令和7年1～12月の旬別沿岸水温 (●：令和7年値 ○：平年値※)  
※平成3～令和2年の30年平均値

**[サバたもすくい棒受網]**

**1 たもすくい (令和7年1~12月)**

令和7年漁期の操業は1月18日に始まり、北部海域の大島千波でゴマサバ主体の操業が行われた。2月は利島、大島千波及び三宅島に漁場が形成され、ゴマサバ主体の漁獲があった。3月は利島、大島千波及びひょうたん瀬に漁場が形成された。漁獲物はゴマサバ主体であったが、3月29日に今漁期初めてマサバ主体の漁場が形成された。4月は、利島にマサバ主体の漁場が形成され、4月中旬には今漁期最大のマサバの漁獲があった。5月に入り、マサバの漁獲量は急激に減少し、利島、ひょうたん瀬、大島千波及び大室出しにゴマサバ主体の漁場が形成されたが、低調な漁況であった。6月になり、大島千波、利島に漁場が形成されると、ゴマサバ主体のまとまった漁獲が見られはじめた。7月は利島、ひょうたん瀬や金洲、御前崎沖に漁場が形成され、ゴマサバの漁獲があった。7月以降マサバは漁獲されなかった。8、9月は利島、大島千波、10月は大島千波、金洲及び御前崎沖に漁場が形成されたが、低調な漁況であった。11、12月は利島に漁場が形成された。12月には多少まとまった漁獲が見られたが、それ以外は低調であり、そのまま今期のたもすくい操業は終漁した。

令和7年1~12月における静岡県主要4港(伊東・静浦・沼津・小川)の水揚量は、マサバが125トン(前年:217トン)、ゴマサバは508トン(前年:881トン)と共に前年を大きく下回った。また、1~6月のマサバCPUE(1夜1隻)は1.1トンで前年(1.6トン)を大きく下回った。

**2 棒受網 (令和7年5~12月)**

今漁期の棒受網漁業は5月13日に始まり、漁場はひょうたん瀬に形成された。6月はひょうたん瀬、大室出しに、7月は三本に漁場が形成されたが、低調な漁況であった。8月はひょうたん瀬、三本及び御前崎沖で多少まとまった漁獲が見られた。9月は御前崎沖、三本に漁場が形成されたが、低調な漁況であった。11月に三宅島及び三本に漁場が形成されると、今漁期初めて棒受網操業によるまとまった漁獲が見られ、10トン/隻を超える日もあった。しかし、12月になると再び低調な漁況となり、その後は北部海域に漁場が形成され続けたことを受け、今期の棒受網操業は終漁となった。

令和7年の静岡県主要4港(伊東・静浦・沼津・小川)におけるゴマサバ水揚量は78トン(前年比7.2倍)、CPUEは2.4トンであった(前年:1.8トン)

※ 伊東・静浦・沼津・小川の4港

**3 小川魚市場におけるさば類単価 (表2)**

令和7年の小川魚市場におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価は、マサバが160~293円/kg(1~6月)、ゴマサバが168~428円/kg(1~12月)であった。マサバ、ゴマサバともに全国的な不漁の影響を受け、価格は高値で推移した。

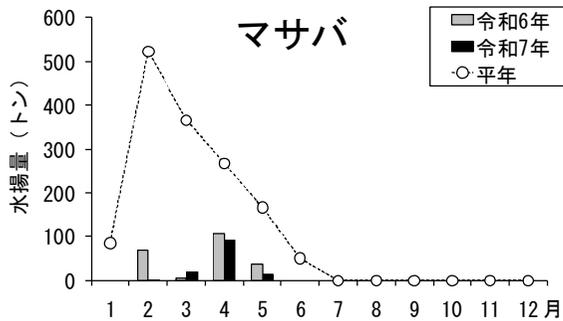


図4 たもすくい・棒受網によるマサバ月別水揚げ量の推移(静岡県主要4港)

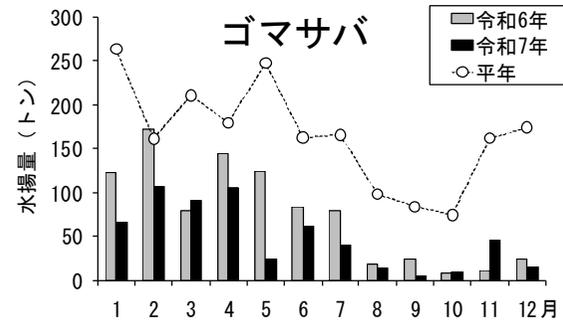


図5 たもすくい・棒受網によるゴマサバ月別水揚げ量の推移(静岡県主要4港)

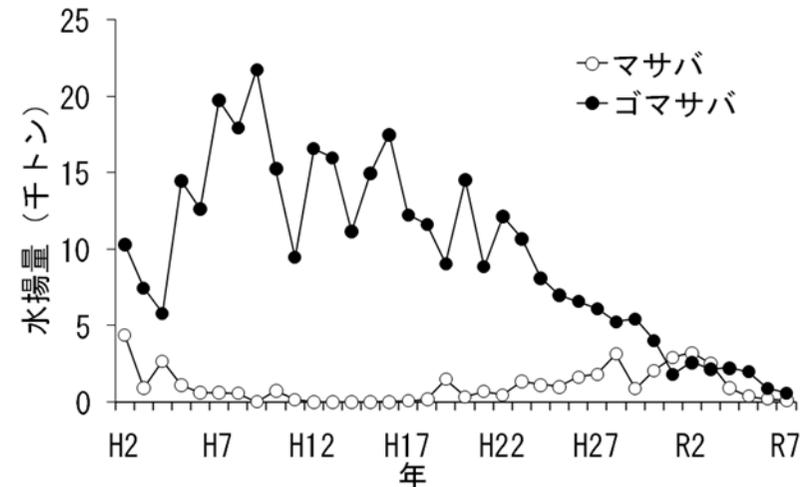


図6 たもすくい・棒受網による魚種別さば類水揚量(静岡県主要4港) ※平成21年以前はたもすくいによる水揚げも含む

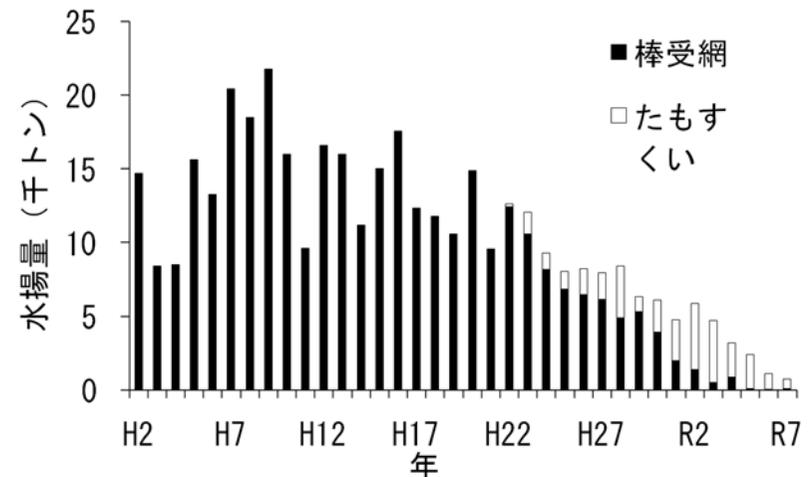


図7 たもすくい・棒受網による漁業種類別さば類水揚量(静岡県主要4港) ※平成21年以前はたもすくいによる水揚げも含む

表2 小川魚市場(焼津市)におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価(単位:円/kg)

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和3年	マサバ	203	96	79	61	106	124	-	-	-	-	187	127
	ゴマサバ	114	111	82	92	107	103	123	121	155	131	138	124
令和4年	マサバ	126	121	86	95	165	191	-	324	-	-	203	-
	ゴマサバ	111	100	75	92	160	117	143	171	168	141	150	161
令和5年	マサバ	328	266	184	168	153	171	-	-	-	-	-	237
	ゴマサバ	212	195	185	212	170	180	175	194	163	156	207	216
令和6年	マサバ	245	260	226	169	130	216	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	217	202	218	198	165	201	211	269	239	213	197	218
令和7年	マサバ	216	293	208	167	160	189	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	218	306	222	168	203	188	209	246	266	236	247	428

**[サクラエビ船曳網]**

春漁は4月2日夜～6月2日夜にかけて操業が行われた。この春漁ではサクラエビの主産卵場である湾奥に1日当たりの操業隻数を最大10ヶ統とした保護区を設定する等の産卵エビの保護を目的とした自主規制が導入された。出漁日数は21日、漁獲量は292.6トンで、漁場は主に沼津沖～田子の浦沖、由比沖に形成された（前年の出漁日数は19日、漁獲量は340.3トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長37.8mm（前年は38.4mm）の0歳エビ（令和6年生まれ）が主体であった（図8）。

秋漁は11月4日夜～12月18日夜にかけて操業が行われた。この秋漁では産卵後の1歳エビ（令和6年生まれ）を漁獲の主体とし、令和8年春に親となる0歳エビ（令和7年生まれ）への漁獲圧を低減するため、海域ごとに異なる1歳エビ割合の漁獲可能基準を設定した自主規制が導入された。出漁日数は15日、漁獲量は212.3トンで、漁場は主に大井川沖～榛原沖に形成された（前年の出漁日数は15日、漁獲量は189.0トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長31.5mm（前年は31.9mm）の0歳エビと平均体長40.4mm（前年は40.8mm）の1歳エビの2群で構成された（図9）。

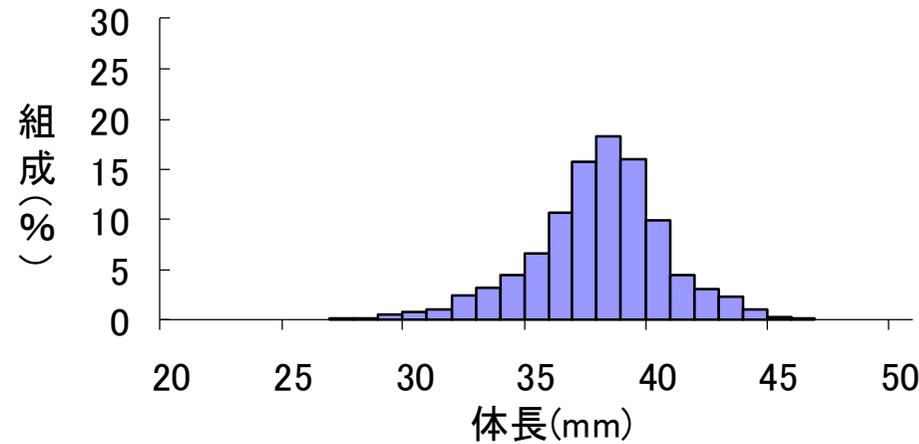


図8 令和7年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

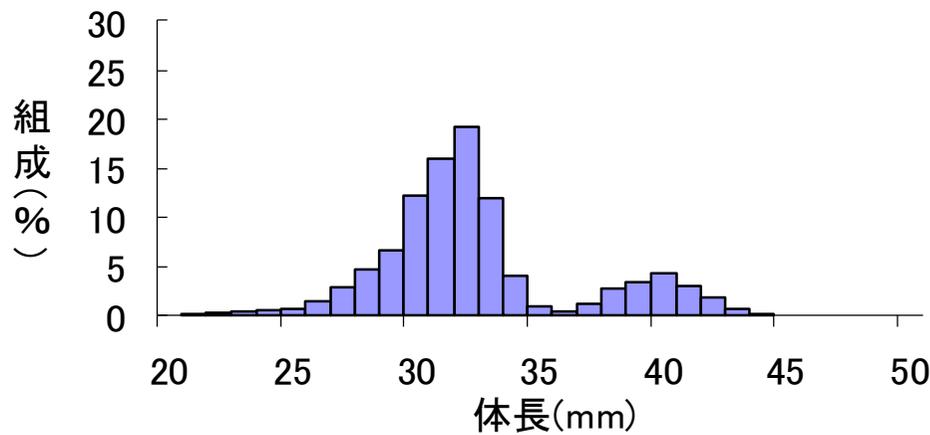


図9 令和7年秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

**[竿釣り近海カツオ]**

**1 水揚量と魚価**

令和7年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は360トンで、前年の517トンを下回り、過去5か年平均（814トン）の44%であった（表3）。魚価は644円/kgで前年（385円/kg）および過去5か年平均（413円/kg）を上回った（表3）。

**2 漁況（漁場形成と魚体）**

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した。

- 1月 水揚げなし
- 2月 水揚げなし
- 3月 3月中旬に熊野灘沖(33° N、137° E付近)で近海・沿岸竿釣り船の操業が始まった。
- 4月 沿岸竿釣り船が熊野灘～遠州灘沖(33° N、137～138° E付近)で、近海竿釣り船が八丈島周辺海域(33° N、140° E付近)で操業した。
- 5月 沿岸竿釣り船が金洲や熊野灘沖(33° N、137° E付近)で、近海竿釣り船が伊豆諸島北部海域(34° N、139° E付近)で操業した。
- 6月 沿岸竿釣り船が金洲や銭洲、御前崎沖(34° N、138° E付近)で操業した。
- 7月 沿岸竿釣り船が銭洲や三宅島周辺海域で、近海竿釣り船が八丈島周辺海域(33° N、140° E付近)で操業した。
- 8月 沿岸竿釣り船が御前崎沖(34° N、138° E付近)で操業した。
- 9月 沿岸竿釣り船が御前崎沖(34° N、138° E付近)で、近海竿釣り船が八丈島周辺海域(33° N、140° E付近)や伊豆諸島北部海域(34° N、139° E付近)で操業した。
- 10月 沿岸竿釣り船が御前崎沖(33° N、138° E付近)や伊豆諸島北部海域(33° N、139° E付近)で操業した。
- 11月 水揚げなし
- 12月 水揚げなし

表3 令和7年近海・沿岸釣り船のカツオ水揚量等（県内主要5港）

年 月	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均 単価 (円/kg)	主漁場と魚体 ( ) 内は尾叉長モード、単位はcm
R7年1月	-	-	-	-	-
2月	-	-	-	-	-
3月	38	10	3.8	760	-
4月	82	28	2.9	733	遠州灘沖(56)
5月	55	17	3.2	580	三重県浮魚礁No.2(47)
6月	52	32	1.6	839	金洲(46)
7月	47	33	1.4	576	角の瀬(52)
8月	10	7	1.4	562	-
9月	44	30	1.5	513	高瀬(41)
10月	33	21	1.6	386	-
11月	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	-	-
R7年計*	360	178	2.0	644	
R6年計	517	225	2.3	385	
過去5か年平均	814	271	3.1	413	令和2～令和6年の平均

※各月の数値は四捨五入しているため、各月合計値と年計と一致しない場合がある。

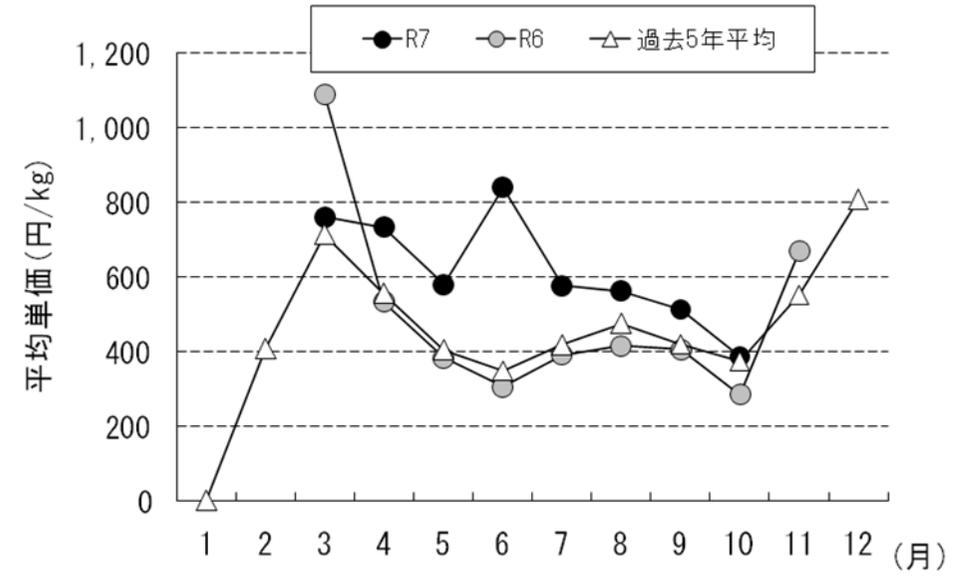


図11 近海・沿岸釣りカツオの月別平均単価の推移

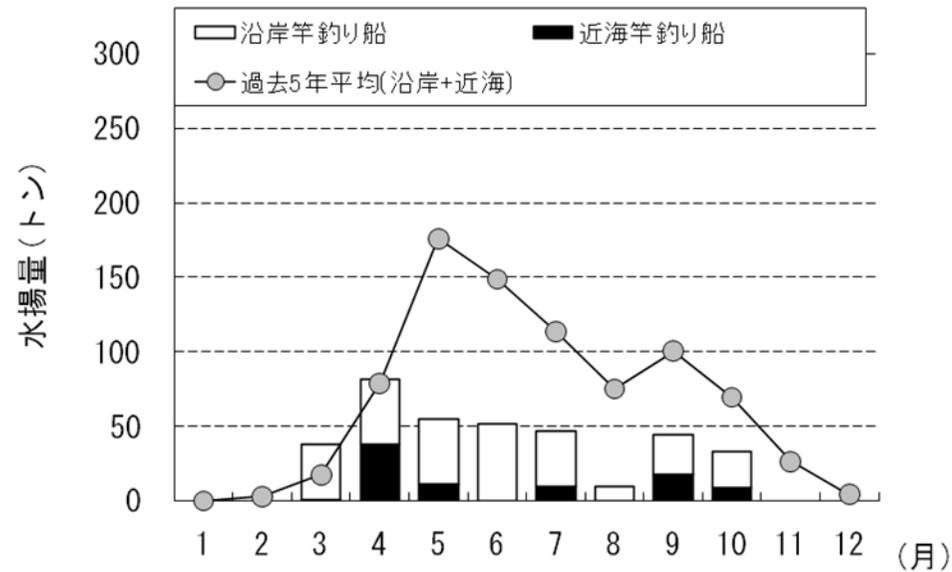


図10 近海・沿岸釣りカツオの月別水揚量の推移

**【まき網（いわし類）】**

**1 マイワシ**

令和7年における伊東港の総水揚量は136トンで、前年(226トン)の60%、平年\*(479トン)の28%であった。最も水揚量が多かったのは2月で45.3トンであった。

沼津港の総水揚量は1,646トンで、前年(2,849トン)の58%、平年(3,903トン)の42%であった。最も水揚量が多かったのは4月で876トンであった。

小川港の総水揚量は1,093トンで、前年(2,339トン)の47%、平年(1,865トン)の59%であった。最も水揚量が多かったのは3月で898トンであった。

**2 カタクチイワシ**

令和7年沼津港の総水揚量は21トンで、平年の27%であった（前年水揚なし）。

小川港の総水揚量は0.002トンで、前年(2.5トン)の0.1%、平年(13.2トン)の0.02%であった。

※平年：過去5か年(令和2～令和6年)平均

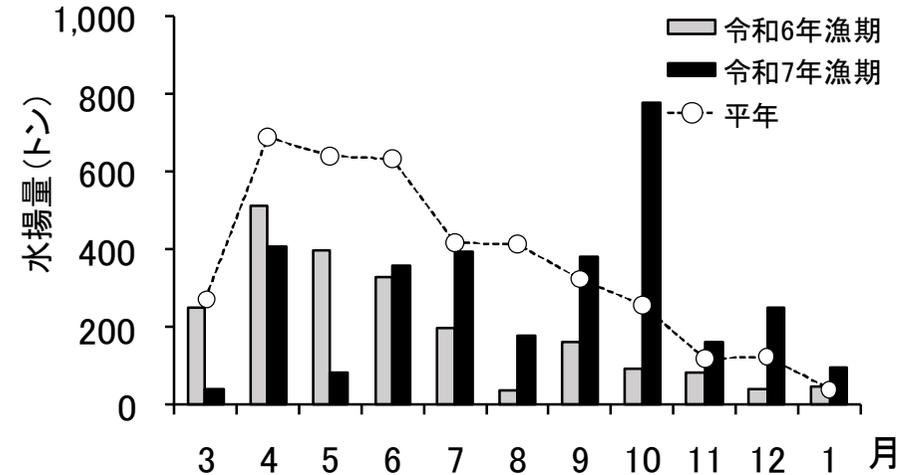


図12 令和7年漁期 県内7港シラス水揚量の推移

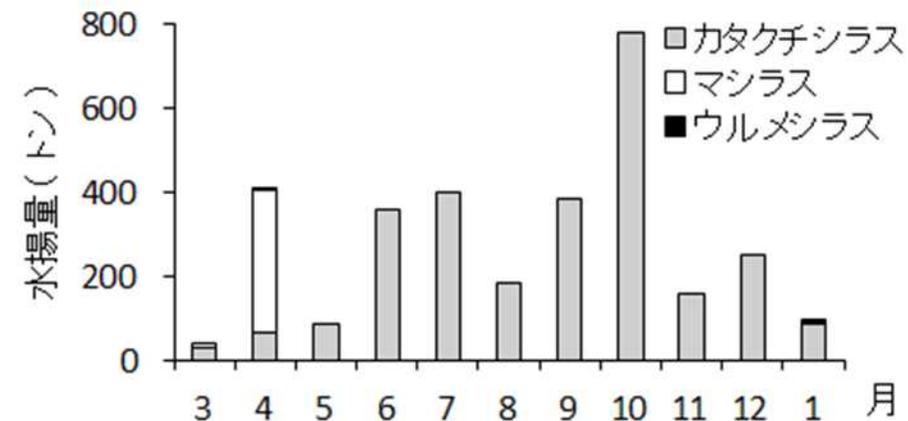


図13 令和7年漁期 県内7港シラス魚種別水揚量の推移

**【シラス船曳網】**

令和7年漁期の県内7港(由比、用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は3,126トンで、前年(2,134トン)の1.5倍、平年\*(3,921トン)の80%であった。また、駿河湾(由比、用宗、吉田)では1,234トンで、前年(856トン)の1.4倍、平年(1,503トン)の82%であった。遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)では1,892トンで、前年(1,278トン)の1.5倍、平年(2,418トン)の78%であった。総水揚金額は39.7億円で、前年(25.9億円)の1.5倍、平年(35.2億円)の1.1倍であった。平均単価は1,269円/kgで、前年(1,213円/kg)の1.0倍、平年(1,003円/kg)の1.3倍であった。

3月は40トンで前年(248トン)の16%、平年(270トン)の15%であった。4月は406トンで前年(512トン)の79%、平年(688トン)の59%であった。5月は83トンで前年(398トン)の21%、平年(640トン)の13%であった。6月は358トンで前年(327トン)の1.1倍、平年(632トン)の57%であった。7月は396トンで前年(197トン)の2.0倍、平年(416トン)の95%であった。8月は180トンで前年(36トン)の5.0倍、平年(413トン)の44%であった。9月は381トンで前年(158トン)の2.4倍、平年(324トン)の1.2倍であった。10月は779トンで前年(92トン)の8.5倍、平年(256トン)の3.0倍であった。11月は158トンで前年(81トン)の2.0倍、平年(118トン)の1.3倍であった。12月は250トンで前年(40トン)の6.2倍、平年(124トン)の2.0倍であった。1月は96トンで前年(46トン)の2.1倍、平年(39トン)の2.5倍であった。

シラスの魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かったのは、10月(779トン)であった。マイワシのシラスは3～4、1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は4月(338トン)で、最も水揚割合が多かった月も4月(83%)であった。ウルメイワシのシラスは3～4、12～1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は1月(4トン)で、最も水揚割合が多かった月は3月(6%)であった(図13)。

※平年：過去5か年(令和2～令和6年)平均

**[ 定 置 網 ]**

令和7年の伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は3,241トンで、前年水揚量4,654トンの70%、平年値（昭和57年～令和6年平均）3,965トンの82%であった。月別漁獲量では8月は前年を上回り、6、12月は前年並み、1～5、7、9～11月は前年を下回った（図14）。

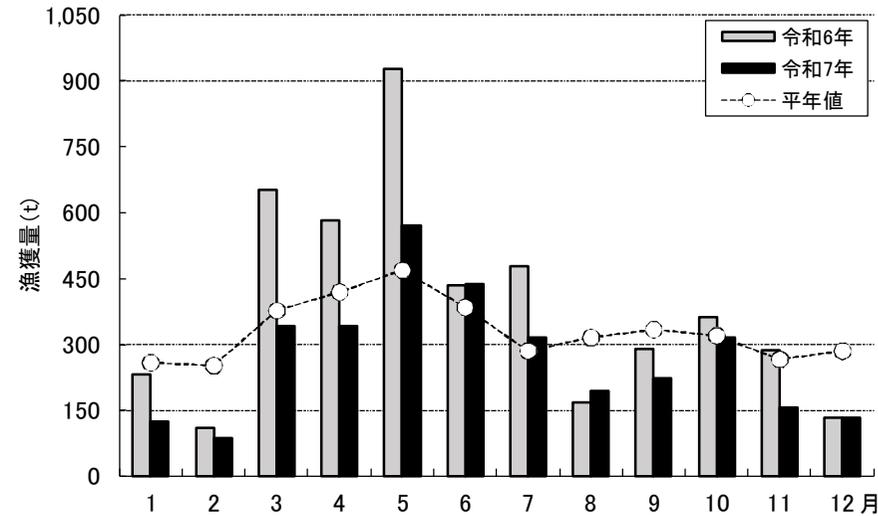


図14 月別水揚量の推移

漁場別水揚量は、いずれの漁場も前年を下回った。水揚量の多かった漁場は、順に古網（さば類、マアジ、マルソウダ主体）、伊豆山（マアジ、さば類、マイワシ主体）、北川（さば類、マルソウダ、マイワシ主体）漁場であった（図15）。

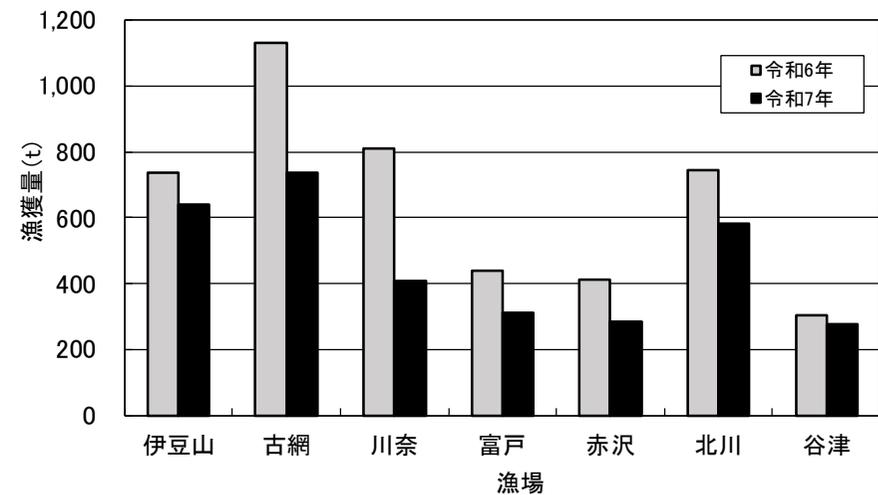


図15 漁場別水揚量

多獲された魚種（上位10種）の水揚量は表4のとおりで、さば類、スルメイカ、カタクチイワシ、メアジ、ヒラソウダは前年を上回り、マルソウダ、マアジ、ブリ、マイワシ、ヤマトカマスは前年を下回った。

さば類は716.9トン、前年比1.7倍、平年比73%で、5～10月に水揚量が多かった（年間平均水揚量を上回った）。水揚げされたさば類のうち、マサバは77.9トンで、前年比75%、平年比58%、ゴマサバは519.5トンで、前年比1.9倍、平年比61%、さばっこ（小型当歳魚銘柄）は119.6トンで、前年比3.1倍、平年比1.7倍であった。

マルソウダは480.0トン、前年比62%、平年比1.9倍で、5、6月に水揚量が多かった。

マアジは442.5トン、前年比66%、平年比92%で、4～6月に水揚量が多かった。水揚げされたマアジのうち、じんだ（小型当歳魚銘柄）は3.7トンで、前年比14%、平年比12%であった。

ブリは364.6トン、前年比68%、平年比1.3倍、銘柄わらさ、ぶり主体で、3、4月に水揚量が多かった。水揚げされたブリのうち、銘柄ぶりは139.7トンで前年比57%、平年比1.3倍、銘柄わらさは203.0トンで前年比76%、平年比1.7倍、銘柄いなだは3.5トンで前年比55%、平年比10%、銘柄わかしは18.4トンで前年比90%、平年比81%であった。

マイワシは356.4トン、前年比29%、平年比83%であった。3、4、6、7月に水揚量が多く、3、4月は中羽～大羽主体、6、7月は小羽主体であった。

表4 多獲された魚種の水揚量

魚種	水揚量 (トン)	前年比	平年比
さば類	716.9	1.66	0.73
マルソウダ	480.0	0.62	1.85
マアジ	442.5	0.66	0.92
ブリ	364.6	0.68	1.27
マイワシ	356.4	0.29	0.83
ヤマトカマス	110.5	0.48	1.28
スルメイカ	85.2	3.11	0.44
カタクチイワシ	65.5	207.39	0.19
メアジ	64.5	1.24	4.08
ヒラソウダ	50.2	1.69	1.76

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ  
 トップページ …… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>  
 海洋情報のページ …… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>  
 右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、  
 関東・東海海況速報等を見ることができます。

